

# 神奈川県青少年科学体験活動 推進協議会 NEWS

平成30年12月5日発行

〒250-0292 県立青少年センター

科学部 科学支援課

TEL: 046-222-6370

第146号



## 自然を楽しみながら科学を学ぼう

今年の夏は記録的な「猛暑」でした。8月の台風発生数の9個は、24年ぶりの多さだったとか(気象庁)。10月になっても気温が30度を超える「真夏日」もありました。しかし、季節は確実に巡るもので、11月になり朝晩はさすがに冷えるようになりました。そして今年の冬は・・・暖冬の予想だそうです(気象庁)。




### 自然観察会

そんな豊かな自然の中で、楽しみながら科学を学ぶ講座が「自然観察会」です。今年度は、春・夏・秋・冬の4つの季節も体感できる講座を実施しました。

#### ①春「江の島」を学ぼう

今年度最初の自然観察会は、5月26日(土)に「江の島」で行いました。

春の暖かな日差しの中、江の島の自然や歴史について学びました。(協議会ニュース122号でも紹介)

江の島にまつわる龍伝説	地層や潮間帯生物の観察	生活の場所としての江の島
		
江ノ島に入る前に江の島全体を見渡しなが ら、江の島の地名、江の島にまつわる 伝説、地理的な構造などについての説明 を講師の先生から話してもらいました。	江の島の裏側には、地層がよく見える崖 や、貝・カニ・イソギンチャクなどが観 察できる潮間帯があります。ワークシー トに示された生き物を探しました。	「辺津宮」「中津宮」「奥津宮」の3つ の宮からなる江島神社や、片瀬小学校江 ノ島分校の校舎跡、校庭の跡などを見学 しました。

#### ②夏「魚とり」

2回目の自然観察会は、9月8日(土)、鶴見川流域センターを拠点として、鶴見川での「魚とり」でした。鶴見川に生息する生き物の種類・生態や、鶴見川の洪水・治水などの災害対策について理解を深め、身近な自然環境に対する興味・関心を高めることができました。特に、メインの「魚とり」ではNPO法人鶴見川流域ネットワークから講師を派遣していただき、自然観察をしました。



護岸をショートウォーク	網を使って魚とり	取った魚を分類して観察
		
鶴見川流域センターで、鶴見川流域の治水、防災、自然について学んだ後、普通は立入禁止区域の護岸をショートウォークして、魚とりの現場へ!	いよいよ子ども達お待ちかねの魚とりです。安全のためにライフジャケットを装着し、取り方のコツ、ポイントを聞き、各自網を持って川の中へジャブジャブ。	講師の先生が投網を使うと大きなアユやボラが捕まりました。子ども達が網で捕まえた魚やエビも合わせて、名前、分類、特徴を紹介していただきました。



### ③秋「どんぐりのふしぎ」

\*\*\*\*\*



3回目の自然観察会は、10月27日(土)、県立座間谷戸山公園で行われました。当日の午前は雨の予報でしたが、集合時刻には既に青空が広がり、少し汗ばむほどの秋晴れとなり、絶好の自然観察会日和でした。園内を1時間以上散策して、数種類のどんぐりを採集できました。

公園内でどんぐりを採集	拾ってきたどんぐりを分類	親子でどんぐりの盛合せ工作
		
園内パークセンターで、どんぐりの成長過程や不思議な特徴について学んだ後、園内を散策しながらいろいろな種類のどんぐりを採集しました。	集めたどんぐりの特徴を観察しながら、種類ごとに分けてみました。様々な種類のどんぐりがあることを知り、どのように分類されるかを学びました。	事務局で用意したどんぐりを使い、グルーガンでどんぐり盛合せ工作を親子で完成させました。(園内で採集したどんぐりは自宅で煮沸・乾燥するよう指示)

### ④冬「野鳥観察」

\*\*\*\*\*

4回目の自然観察会は、12月1日(土)、鶴見川流域センターが管轄する遊水地(洪水にならないように川の水を一時蓄えておく場所)での観察でした。この遊水地は、学校の一般的な25mプール1万倍分の水量を蓄えることができるそうです。

「どこ?」「ほら、あそこ!」	この日は24種類の野鳥を観察	防災、治水、環境についても学習
		
各自、双眼鏡を持って遊水地内を散策しました。特に池(減勢池)には野鳥が多く見られました。講師の先生が野鳥を発見する「目」には脱帽です。	カモ、バン、サギなど24種の野鳥を観察することができました。野鳥以外の昆虫や植物の観察・解説もあり、遊水地全体の生物・環境についても学習しました。	流域センターの屋上から、日産スタジアムを含む遊水地全体を眺めながら、台風による浸水時の写真と見比べて、遊水地の働きについて解説してもらいました。

### Science Topics

今回の野鳥観察で遊水地を散策している時に、講師の先生が発見したものが右の写真。桜の木に突き刺さっているバッタ=モズの速贅(はやにえ)です。なぜモズはこのようなことをするのでしょうか?

獲物を食べる時に固定するためとか、冬に備えての食糧確保のためとか、いろいろな説がありますが、実はよくわかっていません。子ども達なら、どんな答えを返してくれるでしょうか。あれこれ考え、想像してみることも科学の楽しさの一つです。



### 事務局から



今回の野鳥観察の最中に、日本で観察される野鳥の中では最大級の大きさのアオサギ(右写真、Wikipedia)が姿を現しました。一人の小学生が「体長は94cm!」と言いました。私は「ずいぶん細かく覚えているなあ。」と感心していると、講師の先生が「それは〇〇社の図鑑の値だね。」と返していました。体調をcm単位で覚えている小学生もスゴイけど、図鑑ごとの値を覚えている講師の先生もスゴイ…。(事務局:村上、高相、山田、宮城)

